

令和3年度の学校評価（年度末評価）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>『クリティカルシンキングの育成』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 					
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）	本年度の反省と来年度に向けての改善策	本年度評価（A B C D）	
<p>P T A活動 （総務部）</p>	<p>P T Aとの連携強化</p>	<p>学校における諸活動に対し、P T Aとの連携を密にし、積極的な活動を推進する。</p>	<p>P T Aとの連携強化のため情報発信を積極的に行う。</p> <p>A：学校における諸活動を発信した 100% B：学校における諸活動を発信した 75%以上 C：学校における諸活動を発信した 50%以上 D：学校における諸活動を発信した 50%未満</p>	<p>P T A総会、文化祭におけるP T A企画をはじめ、感染症対策をしながら実施できたP T A活動も多かった。今後、保護者に対し本校の現状を情報発信するにおいて、関係する分掌・学年・学科等との連携を取り、充実した情報を提供していきたい。</p>	<p>B</p>	
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>1人1台タブレットとプロジェクトを活用した授業改善の促進</p>	<p>ICT活用ノウハウの浸透、教材の蓄積を実践する。公開授業週間や研究授業にてICTを活用した授業実践を推進する。</p>	<p>教科指導におけるICTを活用した「わかる授業」の日常の実践を推進する。</p> <p>A：授業でICTを活用した教員が100% B：授業でICTを活用した教員が75%以上 C：授業でICTを活用した教員が50%以上 D：授業でICTを活用した教員が50%未満</p>	<p>ICTを活用した授業の実践について全職員にアンケートを実施し、約40%の教員が授業でICTを十分に活用できていないと回答があった。今後教科にお願いしながら、積極的なICT活用に努めていきたい。</p>	<p>C</p>	
<p>生徒指導 （生徒指導部）</p>	<p>交通事故の防止</p>	<p>外部講師による交通安全指導講話を実施する。 生徒生活委員を活用して継続的な啓発活動に取り組む。</p>	<p>生徒の交通安全への自己意識を高めさせるために交通講話や立ち番指導の徹底を図る。</p> <p>A：交通事故件数が18件以内（前年度比20%減） B：交通事故件数が19件以内（前年度比15%減） C：交通事故件数が20件以内（前年度比10%減） D：交通事故件数が23件以上（前年度より増）</p>	<p>交通事故件数は22件であった。10月より自転車保険の加入義務、ヘルメット着用の努力義務などが実施された。交通安全講話や、職員の交通立番指導などを通して、今後も生徒の意識改革をさせていきたい。</p>	<p>C</p>	
<p>生徒会活動 （生徒会部）</p>	<p>目標を理解し協働的に取り組むことのできる生徒会行事の実施</p>	<p>安全で安心な生徒会活動の在り方について、生徒が考える時間を積極的に設ける。</p>	<p>各分掌との連携と直近の状況を分析し、柔軟に実施方法を検討する。</p> <p>A：全ての行事で実施できた B：4つの行事で実施できた C：2つの行事で実施できた D：実施できなかった</p>	<p>生徒会行事を予定通り行うことが難しい状況が続いたが、球技大会は延期して行うことができた。全ての行事を実施することはできなかったが、そのときの状況によって柔軟な判断と対応をすることができた。</p>	<p>B</p>	

教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒に対する適切な対応	教職員の連携と協力体制を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関との連携	相談アンケートは、質問事項の精選を行い、ICTを活用して正確な生徒の状況把握に努める。 A：相談アンケート等でICTを活用した教員が100% B：相談アンケート等でICTを活用した教員が75%以上 C：相談アンケート等でICTを活用した教員が50%以上 D：相談アンケート等でICTを活用した教員が50%未満	コロナ禍で実施した「心の健康調査」アンケートでは2学期よりタブレットを活用し実施した。質問項目を毎回見直し、生徒の状況把握をより正確に行うことに努めた。その結果、学年・担任とも該当生徒への対応がスムーズにおこなわれ、緊急を要する場合には、スクールカウンセラー、外部機関（ココエール等）と素早く連携を取り対応することができた。	B
保健・清掃指導 (保健厚生部)	感染症対策に対する生徒の実践的行動の育成	健康観察の徹底とICT化 生徒による校内の感染症予防のための整備、広報活動	感染症に関する情報を常に校内で共有する。 A：生徒の実践的な行動が100%達成できた B：生徒の実践的な行動が75%達成できた C：生徒の実践的な行動が50%達成できた D：生徒の実践的な行動が25%達成できた	Teamsを使った健康観察を7月から1年生1クラスで開始し、2月には全生徒、職員に導入できた。来年度は集計したデータのフィードバックや活用方法を検討したい。生徒保健委員会が積極的に校内感染症予防対策のための整備ができた。	B
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の一層の充実による望ましい職業観と勤労観の育成	学年に応じたガイダンスを実施する。進路先の広報担当者や活躍する卒業生と話しをする機会を増やす。	生徒の進路実現や積極的な学校生活につながる外部講師の活用を図る。 A ガイダンス全てに講師を活用できた B ガイダンスの3/4に講師を活用できた C ガイダンスの2/4に講師を活用できた D ガイダンスの1/4に講師を活用できた	3年生は進路先の広報担当者や活躍する卒業生から話を聞き、進路実現につなげることができた。2年生と1年生に対しては、講師が来校できる時には講話をしていただき、生徒は望ましい職業観を身につけることができた。来年度も講師を積極的に活用したい。	A
図書館活動 (図書館部)	生徒の主体的な読書活動と図書館利用の促進	授業における図書館利用を促進する。図書選定にあたり、多くの生徒からの希望を集約する。	生徒への貸出冊数を増やす。 A：生徒への貸出冊数が前年度比110%以上 B：生徒への貸出冊数が前年度比100%以上 C：生徒への貸出冊数が前年度比70%以上 D：生徒への貸出冊数が前年度比50%未満	生徒からの本のリクエストの集約に力を入れ、授業やLT時に読書の時間を設けたことにより1月末の貸出冊数は約2,500冊と昨年度末の約3倍となった。来年度は工事の影響により減少すると思われるが、読書習慣を継続できるよう工夫していきたい。	A
情報管理・情報発信 (教育情報部)	1人1台タブレットの速やかな導入と安定した運用	初期設定を早期に完了し、運用を開始する。また導入後は生徒職員の利活用をサポートする。	全校生徒のタブレットを早期運用する。 A：1学期中に運用開始できた B：2学期中に運用開始できた C：3学期中に運用開始できた D：今年度中に運用開始できなかった	1人1台タブレットは1学期中に運用を開始することができた。運用開始後には、利用上の問題の他、破損や紛失の対応が多かったが、校内処理は速やかに行った。来年度はスムーズな運用をサポートしたい。	A

商業教育 (商業科)	新しい学習評価に 対応できる評価方 法の実践	新学習指導要領に基づ き1年次科目の年間学 習指導計画及び評価規 準を作成し試行を検討 する。	評価規準を作成し試行検討する。 A：評価規準を試行検討することができた B：評価規準を試行することができた C：評価規準の作成に留まった D：評価規準の作成ができなかった	1年次科目の年間学習指導計画及び評価規 準の作成は簡易版に留まっており、評価規 準の検討がしっかりとできていない。4月 までには検討を重ね新学習指導要領の評価 に対応していく。	B
総合ビジネス 科	教科商業の学びを 生徒が地域社会に 生かすことができ る取組の推進	授業にて地域社会との 協働事業を設定でき るように学科主任と授業 担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画創造する。 A：連携授業に参加した生徒が100% B：連携授業に参加した生徒が75%以上 C：連携授業に参加した生徒が50%以上 D：連携授業に参加した生徒が50%未満	新型コロナウイルス感染症のまん延により 校外での取り組みが十分に行えなかった が、学校内での連携授業は全員実施するこ うできた。	A
情報処理科	I T分野において 地域産業の活性化 を牽引できる素養 の深化	地域の学校や企業と連 携しI T技術に関する 実践を行う。	I T実践に取り組む。 A：I T実践に取り組んだ生徒が100% B：I T実践に取り組んだ生徒が75%以上 C：I T実践に取り組んだ生徒が50%以上 D：I T実践に取り組んだ生徒が50%未満	3年生は地元のI T系企業と地元大学と連 携し、1年間通したアプリの開発実習を行 った。2年生については地域や企業との連 携ができなかったため、学校内でI T実践 に取り組んだ。	A
国際ビジネス 科	ビジネスのグロー バル化で必要とさ れる外国語及び経 済の学力の定着	キャリアを意識し自信 をもたせるための高度 な資格取得の挑戦をさ せる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満	積極的に取り組んだが受験者数を集計した ところ、約35%であった。外国語及び経 済の学力の定着という目標を達成するには やや不十分であった。	C
経理科	会計の情報化に対 応するためにタブ レットを活用した 授業改善の実践	授業改善の実施を促進 するために学科主任と 科目担当者が連携す る。	タブレットを活用した授業改善を実施する。 A：授業改善に取り組んだ科目が80%以上 B：授業改善に取り組んだ科目が50%以上 C：授業改善に取り組んだ科目が30%以上 D：授業改善に取り組んだ科目が30%未満	オンライン授業や課題の配付などタブレッ トを活用した授業配信に取り組むことが できた。ICT機器を今後も授業に取り入れ ていけるよう授業改善に取り組んで きたい。	A
第1学年 (1年学年会)	帰属意識の高い人 材の育成	学校生活を通して、集 団行動を常に意識させ る。 L Tや学校行事では主 体的な取組を行い、尊 重し合える雰囲気を作 る。	学校行事を通して、帰属意識を高める。 A：帰属意識が高まった生徒が80%以上 B：帰属意識が高まった生徒が60%以上 C：帰属意識が高まった生徒が40%以上 D：帰属意識が高まった生徒が40%未満	1年生全体にアンケートを実施し、学校行 事を通して主体的な取組ができたり、自分 の役割を見つけることができたりと達成感 を味わうことができた生徒が80%以上であ った。また、集団生活の大切さを理解でき た生徒も多く、帰属意識を高めることが できた。	A

第2学年 (2年学年会)	自覚と責任を持ち主体的に行動できる生徒の育成	学校行事・HRでの各自の仕事を明確化し、自主的に取り組みやすい環境を整える。	各生徒がそれぞれの役割を自覚し主体的に行動できる A：学校生活において主体的に行動できた生徒が80%以上 B：学校生活において主体的に行動できた生徒が60%以上 C：学校生活において主体的に行動できた生徒が40%以上 D：学校生活において主体的に行動できた生徒が40%未満	80%以上の生徒がHR役員など学校生活においての自分の仕事を自主的、主体的に行うことができた。来年度は最終学年として、生徒自身の将来について真剣に考え、進路実現を支える体制を整えていきたい。	A
第3学年 (3年学年会)	進路決定・進路実現へ向け主体的に行動できる生徒の育成	生徒が自ら進路を選択することに重点を置きながら、学年・進路指導部・保護者間での情報共有を確実に行う。	選択肢を示しながらも、最終的な決定・選択は生徒に委ねる。 A：主体的に進路を選択できた生徒が90%以上 B：主体的に進路を選択できた生徒が75%以上 C：主体的に進路を選択できた生徒が60%以上 D：主体的に進路を選択できた生徒が60%未満	90%以上の生徒が自ら主体的に進路選択をし、ほとんどすべての生徒が進路決定をした。担任間はもちろん進路指導部とも積極的に情報交換や状況の確認を行い、生徒が主体的に進路選択をするよう援助ができた。来年度以降も生徒が自身の将来について真剣に考え、意思決定できる体制を整えていきたい。	A
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に係る取組の充実を図る。	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見に全職員で取り組む。 A いじめの件数0件 B いじめの件数3件以内 C いじめの件数5件以内 D いじめの件数6件以上	いじめアンケートでの結果は、年間5件の申し出であった。全てにおいて対応し、いじめとしての継続性や緊急性は見当たらないと判断したが、今後も該当生徒を注意して見守る必要がある。職員で情報を共有し、いろいろな角度で見守りと指導を続けていく。	C
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害を防止する。	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	教職員の健康状態が良好であった。 A 教職員の健康障害が0件 B 教職員の健康障害が1件 C 教職員の健康障害が2件 D 教職員の健康障害が3件以上	教職員の健康障害は0件であったが、45時間を超える勤務をする職員が複数名見られた。分掌での仕事の割振りや部活動の交代での指導などを依頼しているが、なかなか進まない現実がある。健康障害は0件であるが、今後も校務削減などの対策をしていかなければならない。	A
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における授業改善の工夫について ・基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚について ・学習環境、学校施設等における整備状況について 			